

# Change and Make “安曇川”

一生懸命 ~学ぶ・動く・つながる~

## ☆入試シーズン真っ只中・・・私学入試、県立高校特色・推薦選抜は終了

2月3日(木)4日(金)県内私立高等学校入試、2月8日(火)県立高校推薦、特色、スポーツ・文化芸術推薦選抜、2月10日(木)~12日(土)京都府私立高等学校入試と、入試シーズンの前半を終えました。

次は、3月の県立高校一般選抜です。さて、推薦選抜では面接試験があるわけですが、それに向けてということも含めて、2学期に3年生全員に校長室で自己PRをしてもらいました。ちなみに、一人の目標タイムは2分以上としましたが、それを達成した人は29.6%(32名)、1分~2分の方は44.4%(48名)という結果でした。話すということは慣れが必要ですね。では、自己PRの内容の一部を紹介します。

笑顔を大切にしているKさん、人との関りやつながりを大事にしているHさん、何事にも一生懸命なUさん、努力することが強みのHさん、自分のも目標をもって貫き通すSさん、後輩に優しく接したSさん、怒りっぽいところを直そうとしているRさん、人の話を聞いて内容を理解するMさん、他人が分からないところを教えられるYさん、家族のためにお風呂掃除しているRさん、人に親切に接しられるYさん、人の良いところを見つけようとしているMさん、音楽を続けているHさん、集中力を高めるためピアノを続けているHさん、音楽が大好きなMさん、最後まであきらめないことが強みのKさん、向上心があるところが強みのRさん、前向きさが良いところのRさん、もの作りが得意なSさん、パソコンをいじる仕事がやりたいYさん、英語を勉強してゲームの世界大会に出たいYさん、楽しく続けられる仕事をしたいSさん、あきらめずに頑張ることができるTさん、運動や水泳が得意なSさん、困っている人を助けられるTさん、クラスの仲間をまとめるのに興味をもったYさん、ポジティブさが取り柄のMさん、ストイックでなりたい身体を目指して筋トレをしているRさん、英検3級を目指して努力しているNさん、一度言われたらきちんと守れるOさん、心がとっても広いYさん、朝早くても大きな声であいさつができるMさん、人を笑顔にできるダンサーを目指しているMさん、計算が得意なRさん、部活で努力の大切さを学んだSさん、面倒見が良いRさん、習ったことを暗記するのが得意なSさん、思ったことを自分から言えるYさん、好きなことをとことん極められるSさん、好きなことを一生懸命めっちゃ頑張れるSさん、誰とでも平等に接しられるYさん、自分からあいさつができるTさん、何事にもまじめに取り組めるHさん、卓球がすごくうまいRさん、やるべきことは曲げないRさん、身の回りのことができるRさん、高校でバイトをするため礼儀を身に付けたいSさん、みんなを明るくさせられるHさん、お菓子作りがうまくなって将来の幅を広げたいYさん、いろいろなことに挑戦できるNさん、身体を動かすことが得意で人を動かす大変さを学んだHさん、どこでも何でも楽しめるTさん、知らない人にも声をかけて仲良くなれるTさん、スポーツができ食べ物の好き嫌いがほとんどないTさん、絵を学のが得意でキャラクターを作って本を出したいRさん、人に気配りができるMさん、人の仕草から察して話すことができるRさん、嫌なことがあっても最後まで頑張ろうと思えるAさん、知らない人とすぐに仲良くなれるIさん、一人でギャグやボケができるおもしろいMさん、韓国ドラマが好きな優しいMさん、ピアノでだんだん難しい曲を弾くのが楽しいMさん、絵をかくのが好きで長い時間集中して勉強できるTさん、漫画好きで自分が決めたことは最後までやり通せるHさん、はまったことややろうと決めたことはやり通せるHさん、細かい作業が得意で何事にも積極的に取り組めるYさん、いろんな人を巻き込んで成長しようと思えるAさん、フレンドリーで明るさが売りのAさん、身体を動かすことが得意で明るいRさん、熱中したものごとを最後までやりとげられるTさん、途中で飽きず決めたものごとを最後まで頑張れるTさん、どんな暗い場も明るくできるTさん、初めての人でも誰とでも喋れるKさん、体力を生かしてチームに貢献できる選手を目指すKさん、人前に立って人をまとめていけるSさん、声が大きく嫌いな人が少ないRさん、人を笑顔にさせたいNさん、ポジティブに前向きに考えられるAさん、いつも明るく笑っていられるHさん、麺を半分にきれいにできるHさん、近くにいると落ち着くと言われるRさん、困っていることを見つけて手伝うことができるSさん、周りの友だちの気持ちを読み取って自分の意見を貫けるSさん、卓球が得意なSさん、優しい性格で運動が得意なSさん、一つのことを頑張りとおせるSさん、ポジティブに何でも考えられるHさん、負けず嫌いで向上心が強いHさん、英会話やピアノなど長く続けられるHさん、発想が凄いとと言われるSさん、時々すべても笑いに変えられるRさん、絵を描くことや本を読むのが好きでよくこけるKさん、英語が得意でそれ以上にするため日常でも使うようにしているYさん、料理が得意なSさん、いろんなときに周りに気配りができるHさん、お風呂掃除を毎日しているYさん、当たり前前のをやろうと意識しているJさん、体力づくりを欠かさずレシピを見れば料理が大体作れるIさん、押しの肌がキレイな人を目指してスキンケアしているKさん、フレンドリーで話題がなくても喋れるJさん、何事も続けられることが長所のYさん、気遣いができる力持ちのHさん、最後までやると思ったことはやり遂げるRさん、計画的に考えて行動できるNさん、人の顔で思っていることを判断する洞察力があるTさん、勉強時間を伸ばそうとしているRさん、人に優しく結構頑張れるRさん、動物に優しく信用できる人には素直なRさん・・・以上108人でした。

## ☆全国中学校スキー大会

・・安中生がんばりました！！

2月1日(火)～4日(金)に長野県野沢温泉村で開催された全国中学校スキー大会の結果は以下の様になりました。

女子クラシカル3km	女子フリー3km
63位 入江花	56位 入江花
85位 三好里桜	66位 三好里桜
88位 小島ゆず姫	69位 小島ゆず姫

男子クラシカル5km	男子フリー5km
123位 道前慧一	98位 中村勇翔
124位 中村勇翔	111位 安原煌貴
128位 安原煌貴	112位 道前慧一

また、都道府県対抗であるリレーでは、4人のメンバーの中で、男子は中村勇翔さん、女子は入江花さん、三好里桜さん、小島ゆず姫さんが参加しました。

結果は、男女ともに10位という結果で表彰状もいただきました。



## 北京オリンピックより

高梨沙羅選手の涙に何を感じたでしょうか。大会に臨む高梨選手の練習風景をテレビで見て、トップ選手の気迫や凄さを感じた後で、オリンピックを見ました。ジャンプ担当記者の書かれた記事の一部です。

2月5日(土)のスキージャンプ女子は個人ノーマルヒル決勝で4位。

今大会の金メダル獲得に向けて、「4年計画」で取り組んできた沙羅。思いを込めた努力の軌跡を「見た」。

沙羅の瞳は潤み、声は震えた。「私は…頑張ってた前だったと思います。ただ、頑張っても結果を残せなかったら意味がないので、私の頑張りは足りなかった」。涙が一気にあふれた。5位から逆転を狙う2回目、100メートルで意地を見せたが届かない。2大会連続の表彰台も逃した。「結果で恩返しできなかったのが一番悔しい」と絞り出した。W杯最多61勝の沙羅が願いつづけた場所には、W杯未勝利のボガタイ(スロベニア)が立った。沙羅は「五輪は技術だけでは勝てない。いかに入り込めるか。邪念を払って、一番自分のジャンプに没頭した人が勝つんじゃないか」。分かってはいても、難しい。「(4位の)結果は受け入れている。もう私が出る幕ではないかもしれないという気持ちもある」

2月7日(月)新種目の混合団体で1回目に103メートルの大ジャンプ後、無作為抽出されるスーツ検査の対象となり、両太もも回りが規定よりも2センチ大きいため失格。「自分のせいだ」。歩こうとしても、足が立たない。スタッフに肩を抱きかかえられながら、泣き崩れた。が、2本目に挑み、98・5メートルをマーク。のべ7人分の得点で、のべ8人が飛んだ3位カナダを8・3点差まで追い詰めた。涙ながらの一本を飛んだ沙羅の心の強さを、「見た」。

1回目終了後、ドイツ女子のエースで、個人戦銀メダルのアルトハウスも失格したことで、日本は通過圏内ギリギリの8位で2回目進出。沙羅は、自分の意志で2回目を飛んだ。日本代表の鷺沢徹コーチによると、失格になったスーツは4位に入った個人戦(5日)と同じものという。女子の場合、スーツは体より大きくて良いのは2～4センチと定められている。ゆとりがあるほど、揚力が得られるからだ。従って、微妙な体形変化に合わせて調整する必要がある。選手自身は、スタッフから調整が済んだスーツを渡されて着るだけ。鷺沢コーチは「各国、ギリギリ(の大きさ)を攻めないでメダルは取れない。僕たちの計測ミス」。沙羅含め、4か国5人の失格者が出た今戦。し烈なメダル争いの裏返しでもある。

五輪で初の団体戦。沙羅には、今までにない感情があった。「(ジャンプは)個人競技。今まで『身を呈して』とかはあまりイメージできなかったけど、仲間がいると違う」。失格でメダルを逃した。今は自分を責めるな、と言っても無理だろう。ただ、目を赤くしながら2回目に挑んだ沙羅は、鬼気迫っていた。本当に強かった。

高梨選手が4年間貫いたものは「壊す勇氣」だったとこの記者は記し、更に次のような内容が書かれていました。

『…何センチかの重心のズレで、飛距離が何メートルも変わる繊細な競技だけに、壊して元に戻る保証はなく、15歳4か月でW杯初制覇からトップを走り続けた高梨選手は「険しくても、頂点に続く道があるなら、そちらを選びたい」と固い意志で臨んだ。18-19年はW杯1勝でも、結果を度外視し、助走、踏み切り、空中、着地を磨いてきた。全力を尽くして銅だった平昌、ゼロから見直して臨んだ北京。「4年に一度だから注目が集まるわけではない。懸ける気持ちの大きさが、他の大会とは違う。五輪は人々の熱量で作られているからこそ特別だ」という高梨選手の目指した五輪の頂は、それでも遠かった。』

高梨選手がこのまま終わるとは思いたくありません。大空を果敢に舞う雄姿が再び見られる、そう信じて彼女の再起を待っていたと思います！！